

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

まだまだ熱中症対策

秋の虫の音も聞こえ、朝・晩は涼しさも感じられるようになりましたが、日中はまだまだ暑い日が続きます。直射日光を浴び続けると熱中症になる恐れがありますので、子どもたちには、登下校の帽子的着用を呼びかけています。赤白帽子でもかまいませんので、特に下校時や土・日・祝日等に外で活動する際には、必ず帽子をかぶるようご家庭でもご指導ください。

学力向上と生活習慣等

全国学力・学習状況調査（小学校は6年生が対象）の結果、今年は国語・算数ともに全国平均を上回りました。結果を受けての成果や課題、改善策、学校全体で重点的に取り組む事項をまとめ、ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

また、市全体の傾向ですが、次のような児童は、学力が高い傾向にあります。宿題や家庭学習、家庭での会話の大切さと併せ、ご留意くださいますようお願いいたします。

「朝食を食べている」 「きまり（規則）を守っている」 「読書が好き」
「新聞を読んでいる」 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」

祇園歴史の旅（その47）「戦国時代の佐世保、佐世保城と鼻繰城」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「平安時代の終わり頃から、長崎県北部や佐賀県唐津地方には『松浦党』と呼ばれる武士集団が現れ、地域ごとに土地を支配していました。山ばかりの地形なので、平地といえば川の河口付近にしかなく、それが津々浦々に別れているので、その地を支配する武士も小さな勢力になっていたのです。この佐世保にも佐世保氏がいました。

城山町のバス停の東にある小高い丘には、城山町の名前の由来にもなった佐世保城跡があります。丘陵の細い尾根を削りこんで背後からの敵の侵入を防ぐ「掘切」や、建物があつた「平場」が残されています。また、清水中学校の裏にある保立公園も鼻繰（はなぐり）城跡といわれており、ここが佐世保城跡とする説もあります。しかし、こちらは戦前に陸軍の演習場となっていたため、遺構はほとんど残っていません。鼻繰城もそうですが、特に佐世保城は「山城」と呼ばれるもので、湧き水もないことから日常生活には向いていません。ここの城主は、普段は城の麓に築いた館で生活しており、いざ戦いとなったときに城に立て籠っていたのです。

佐世保地方は、戦国時代になると大村氏や武雄の後藤氏、そして最後は平戸松浦氏の領地になるなど、めまぐるしく土地の支配者が変わっています。そうしたなかで、佐世保城の城主も佐世保諫（いさむ）、遠藤但馬守（たじまのかみ）、赤崎伊予守（いよのかみ）と何度も変わりました。」

次回は、「昔ばなし～蛇島（じゃしま）～」と題して、蛇島伝説をご紹介します…。